

暗黙知整備にAI活用

コムチュアクリューグルと提携

【さいたま】コムチュアはクリューグル（東京都港区）と業務提携した。同社が提供するAI（人工知能）プラットフォーム「Krugier」（クリューグル）を活用し、仕様が不透明な既存の製造関連システムの分析や、保守・運用などを行う伴走型の支援サービスを9月中旬以降から始める方針。製造業の設計ノウハウなど、従来型AIでは困難だった形式が定まっていない非構造化データの資産化を推進し、顧客の業務変革を支援する。

既存の文書データを独自の前処理で整理・可視化するなどして、製造業で暗黙知となっていたデータの整備・活用を推進するのが狙い。AI導入が企業で進んでいるものの、既存システムのブラックボックス化や現場のノウハウが個人の資料に分散しているAI活用が進まないケースも多い。製造業における技術の知見などの多くが表計算ソフトウェア「エクセル」などで残され、データとしての整備が難しい側面もあった。

コムチュアは大手SIer向け受託開発など主力とするが、顧客のAI活用を支える高付加価値な事業モデルへの転換を推進中。今回の提携もその一環。